

## 地域と共に和牛五輪を 目指す担い手

5年に一度の「第11回全国和牛能力共進会宮城県大会」が9月に開催される。

今回は復興特別出品区「高校生の部」も設けられ、全国の農業高校生が育てた牛も参加する。



色麻町にある「宮城県加美農業高等学校」は百年を超える歴史の中、地域内外に若い担い手を創出してきた。

同高校からの大会出品牛となることを祈念して、二年前、地域の畜産協議会から種雌牛1頭が贈呈された。

以来、食農科学部畜産班の7名が飼育と調教を担当し、今回その仔牛

である「こころ号」（12ヶ月令）が、宮城県代表牛最終選考会に出品された。

3年生の門田龍季さんなど班員達は、地域の皆さんや調教師の方々から指導を頂きながら、出産・哺育・調教に日々に携わり、和牛飼育の奥深さや調教の難しさを学んできた。

結果は惜しくも県代表を逃がしたが、門田さんは「大会に向けて重ねた努力が候補牛の出品という形になることの喜びと、多くの人との繋がり大切さを学びました。高校卒業後も、畜産に関わる仕事をしたい」と話す。

今後も加美農高生が、色麻町農業はもとより県内の担い手となり、地域農業の振興に貢献できるよう期待されている。

